

# My First Stage

患者の背景を踏まえて治療にこだわる若手 Dr. にご登場いただく欄

## S-shaped profile による クリーピングアタッチメントの観察



松山 智子

東京都開業 上北沢歯科\*, 四谷三栄町歯科  
\*連絡先：〒156-0057 東京都世田谷区上北沢3-17-6 七星ビル2F

キーワード：S-shaped profile, クリーピングアタッチメント

### 臨床経験年数

1997年日本大学歯学部卒業，2002年東京医科歯科大学歯学部歯科第2保存学(歯周病学)講座大学院卒業，歯学博士号取得，上北沢歯科就職，2007年四谷三栄町歯科兼務。

歯肉縁下マージンの形成セミナー(行田克則先生)，アストラインプラント行田塾(行田克則先生)，Nd:YAG レーザーセミナー(行田克則先生)，オルソフリーク(矯正セ

ミナー：鎌田勝之先生)受講。

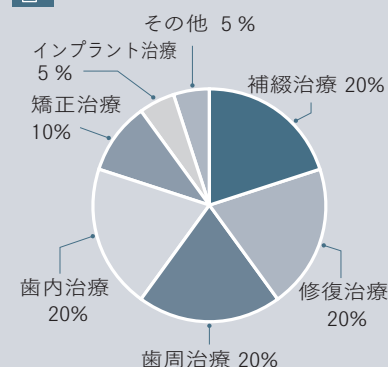
### 診療方針

希望されるすべての患者に歯ブラシ指導から診療を開始し，総合的な歯科治療全般を行い，その後は，定期検診をとおして長期安定をめざした歯科医療を行っている。

### 日々の臨床

駅近ではあるが住宅街の入口になるため，乳幼児から高齢者まで幅広く来院される。院長著名のため，地方からの患者も多い。

### 日常臨床で行う治療の内訳



### 初診時の状態



図1 術前の状態。口腔衛生状態が悪く，広範囲のう蝕および不良補綴物が認められる。

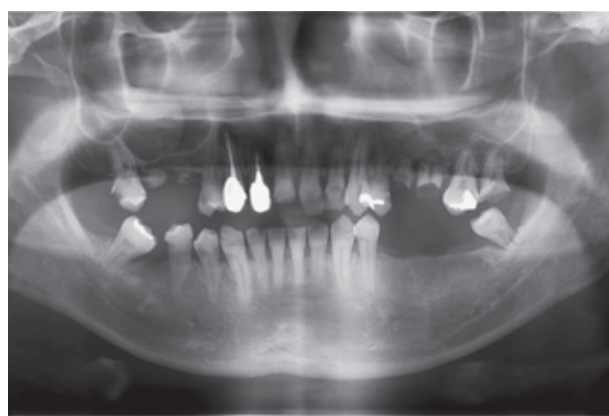


図2 術前のパノラマエックス線写真像。

## 患者のバックグラウンド

### 患者

40歳(平成26年2月初診), 男性. もの静かだが話すと明るい.

### 主訴

今朝自転車で転んで, 前歯をぶつけてから歯が動いて痛い(図1, 2).

### 歯科既往歴

仕事が忙しく数年歯科受診から遠のいていたとのこと. 審美補綴を希望しているのでデンタルI Q は高いと推測できるが, 初診当時の口腔清掃状態は悪く, 前歯部のう蝕も進んでいた.

### その他

時間的には会社勤務なので制約があった. 経済的には前歯部は審美補綴を希望されていた.



## 診査・診断, 治療計画

■ **どのように診査を進め, 診断したか:** 歯周検査およびエックス線診査および視診による支台歯の診査・診断を行った.

■ **診査結果および治療計画説明時の患者の反応:** まず全体的な歯周治療からの開始を説明し, 前歯打撲による歯根破折が疑われるが, 1は歯髄を保存して,

1|2は抜髄を, 3|2は歯内療法後に前装冠または歯肉縁下にマージンを設定した金属焼付ポーセレンクラウンの装着を説明した.

■ **実際の治療:** 口腔環境の改善のために歯周治療(歯ブラシ指導, スケーリング)を徹底し, 修復および歯内治療を行った. 前歯は, 歯肉縁下に支台歯のマー



図3 歯内治療を終えて歯肉縁上への支台歯形成の状態.



図4 ポケットプローブを使用して歯肉縁下への形成量の確認.



図5 歯肉縁下である接合上皮部への支台歯形成の状態.



図6 咬合面観からみた接合上皮部への支台歯形成の状態.



図7 歯肉縁下への支台歯形成前のプロビジョナルレストレーションの状態.

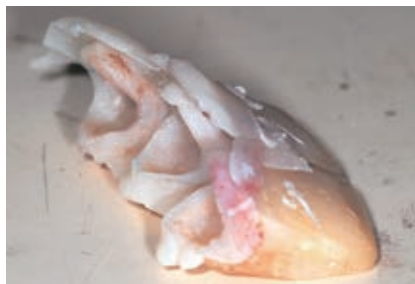


図8 歯肉縁下への支台歯形成終了後にウォッシュした状態. このステップで歯肉縁下への形成量とマージンの滑らかさを確認する.



図9 S-shaped profile を付与した金属焼付ポーセレンクラウン.

ジンを設定し、S-shaped profile を付与した金属焼付ポーセレンクラウンにて審美補綴を行った。

■治療のポイントと治療結果(図3～16)

口腔環境改善後に、前歯部にプロビジョナルレストレーションを装着し、歯内療法(オピアンガッタ法によるバーティカルコンデンセーション)を行い、支台築造を行った。

当院では、長期安定のために、歯肉縁下にマージンを設定した金属焼付ポーセレンクラウンにて審美

補綴を行っている。マージンを縁下に設定することで、補綴物に自然な形態を与えられるだけでなく、自浄作用を期待できるからである。よって、歯肉縁下に支台歯形成を行い、シリコーン印象材で印象採得し、フェイスボウおよびチェックバイトによる咬合採得、歯科技工士によるシェードテイキングを行い、補綴物を製作した。本症例は歯根破折の疑いがあることと将来的に前歯部のフレアによる位置変化の防止のために補綴物に連結を施した。



図10 補綴物装着直前の支台歯の状態。



図11 補綴物装着の状態。歯肉退縮および発赤が認められる。



図12 装着1か月後に補綴物の仮着が緩んだため、一度外したときの支台歯の状態。



図13 まだ歯肉の安定性に不安が残ったため、再度仮着をした。



図14 補綴物装着から7か月の状態。歯肉も安定し、クリーピングも認められる。



図15 補綴物装着から9か月の口蓋側面観。



図16 補綴物装着(仮着)から1年5か月の状態。

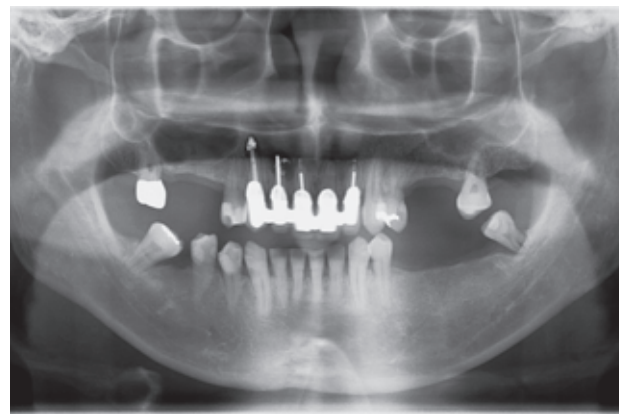


図17 同パノラマエックス線写真像。



## 治療結果の自己評価と患者の様子

■**自己評価**：術前に見込んでいた歯肉のクリーピングが全体に観察され、とくに歯根破折を心配していた3|2|部にも炎症は認められず、順調に予後をたどっているが、まだ装着後1年9か月であるので、今後も慎重に定期検診を行っていきたい。

■**患者との信頼関係が築けたと感じた瞬間**：術直後の歯肉が不安定な時期に、仮着をして経過観察をしたが、その間に来院が途絶えてしまった。仮着がゆるんで再来院した際に、前歯を治療したことを忘れるほど、自然であったから来院しなかったといわれたときに、信頼関係が築けたと感じた。それ以降は定期的に来院してくださっている。

■**今後の課題**：本症例および他に手がけているすべての症例に対して、師匠である行田克則先生の症例



図18 補綴物装着(仮着)から1年9か月の状態。ブラッシングが上達し、口腔環境も改善され、補綴物周囲の炎症も認められず、良好な状態で経過している。

のように10年以上の長期安定をめざし、本症例の10年後の状態を『帰ってきた症例 PLAYBACK』のコーナーに再度投稿できるように経過観察をしていきたい。

message

### 先輩ドクターから

#### ▶ケースから感じること

口腔内環境が整っていない本症例において、松山先生の1歯1歯を大切に、患者側に寄り添った治療を高く評価するとともに師匠行田氏の教えを遵守し、基本に忠実な処置を施していると感じた。とくに1|2|に対し、歯内療法や支台築造を確実にしている姿勢は執念のようなものさへ覚えた。私も行田氏が提唱する歯肉縁下マージン(S-shaped profile)を臨床で行っているが、歯肉縁下形成・プロビジョナルレストレーション製作・印象採得・ラボ作業、それぞれがパーフェクトに遂行され、良好な予後が見込めると考えている。本症例は金属焼付ポーセレンクラウン装着時には成熟していなかった周囲組織が経過を追うごとにクリーピングし、安定を迎えている。このことは10年以上行田氏のもとで研鑽している成果が十分現れていると感じ取ることができた。さて、本症例は前歯部にフォーカスを当てているが、患者は上下臼歯部が欠損しており、局部床義歯を装着している。このような症例においてアンテリアガイダンスを含め、その咬合付とおよび調整に対し、メンテナンス時を含めて苦慮する場面が多い。誌面の都合上、記載はなされていないが、そのひと工夫についてもお聞きしたい



竹下賢仁

東京都開業・たけした歯科

と感じた。また、歯根破折や歯牙移動防止のために補綴部を連結冠にしていることは評価する。しかし、歯内療法を施した3|2|に対し、病巣内に突出した根管充填材の今後の反応は気になるところである。

#### ▶さらに成長してもらうためのメッセージ

1|2|に対する支台築造に使用したポストは根尖部に到達する長いポストである。歯根の強度を考えると歯根破折を惹起する危険性が高いのではないだろうか。メンテナンス中の咬合を含めた力のコントロールをどのように調整していくか、考慮する必要があると感じた。また、本症例は装着時から順調に歯肉のクリーピングがみられる。しかしながら、歯肉は少しの外的な力でも容易に変化する。患者への適切なブラッシング指導が長期安定の鍵を握るひとつであろう。

松山先生も述べているように、本症例は治療終了後から1年9か月と評価期間が短い。今後は5年、10年と予後を見たいと感じた。また、本症例のように根気強く治療を遂行する姿勢は大変素晴らしい。このことは安易に抜歯を選択する場面が多いと感じる現状に一石を投ずることになると思うので、貰っていただきたい。